

船舶事故調査報告書

平成27年5月28日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	火災
発生日時	平成26年12月28日 16時00分ごろ
発生場所	鳥取県琴浦町赤碕港東方沖 赤碕港沖防波堤灯台から真方位084° 3.8海里付近 （概位 北緯35° 31.18′ 東経133° 44.24′）
事故調査の経過	平成27年1月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{さんわ} 三和丸、4.55トン TT3-5724（漁船登録番号）、個人所有 10.75m (Lr) × 2.37m × 0.80m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数50、昭和52年1月30日
乗組員等に関する情報	船長 男性 82歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年5月10日 免許証交付日 平成26年1月15日 （平成31年11月19日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関室、操舵室及び上甲板が焼損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、赤碕港東方沖を西進中、平成26年12月28日16時00分ごろ、機関室付近から黒煙が出ていたので、船長が右舷側にある機関室出入口扉を確認すると、閉まった扉の隙間から炎が出ていた。 船長は、操舵室内にあった持運び式消火器で消火しようとしたものの、レバーピンが腐食していて使用できず、また、火勢が激しくなったので、消火を諦めて近くにいた僚船に救助を求め、来援した僚船に移乗した。 本船は、巡視船艇による消火活動で鎮火したが、その後、沈没した。 （付図1 事故発生場所概略図 参照）
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南、風力 3、視界 良好 海象：海上 平穏

<p>その他の事項</p>	<p>本船は、船長が、出港前に機関室内の点検を行ったが、燃料油（A重油）の漏れや異臭等を認めなかった。</p> <p>本船は、昭和59年に機関を換装した際、電気配線が、交換されたものの、それ以降、交換や点検が行われていなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 不明 不明</p> <p>本船は、赤碕港東方沖を西進中、機関室から出火したものと考えられるが、出火した状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、赤碕港東方沖を西進中、機関室から出火したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消火器は、常に使用できる状態にしておくこと。

付図1 事故発生場所概略図

